

科目名	教育課程論			担当教員	柴田 萌子	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED3EFE109
期待される学修成果	基礎教養					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	・今日の教育課程（カリキュラム）を規定する枠組みを知り、カリキュラム・マネジメントに関する理解を深める。（知識、思考・判断） ・教育課程（カリキュラム）に関する基本知識を知り、歴史的・比較的・実践的な視点をもって教育課程（カリキュラム）の編成が理解できる。（知識） ・子どもや学校・地域の実態を踏まえて教育課程（カリキュラム）を検討することの重要性を理解する。（思考・判断・表現） ・＜学び続ける専門職＞としての自覚を持ち、そのための努力を貫いてゆくことができる。（学びに向かう姿勢）					
授業の概要	本授業は、学習指導要領を基準として各学校で編成される教育課程につきその意義と編成方法を理解し、かつ学校・生徒の実情を踏まえたカリキュラム・マネジメントの在り方を習得することを目標とする。 学校における組織された文化（各教科・道徳・特別活動等学校の教育計画全体）を「教育課程」という。本授業ではこの教育課程（カリキュラム）について基本的な知識を修得し、現代日本の教育課程が直面する課題を多面的に考察して将来の授業実践及び教育課程編成を行なう基礎力を形成する。授業では教育課程の在り方を検討し、より広い視野でカリキュラム・マネジメントをする能力の形成を目指す。 【デジタル技術利用：該当なし】					

授業計画	
第1回	オリエンテーション：教育課程の意義と概念、授業計画、評価について
第2回	教育課程の構造と諸類型①（内容選択の基準）
第3回	教育課程の構造と諸類型②（教育課程編成の基本原理）
第4回	学力問題
第5回	教育課程の編成
第6回	ヒドゥンカリキュラム
第7回	戦後日本の教育課程の歩み
第8回	学習指導要領の成立・戦後日本の改革期における教育課程問題①（戦後「新教育」の教育課程）
第9回	学習指導要領の成立・戦後日本の改革期における教育課程問題②（ゆとり教育～ゆとり教育の転換）
第10回	現代日本の教育課程の歩み①（2017年度学習指導要領の改訂）
第11回	現代日本の教育課程の歩み②（資質・能力ベースの教育課程）
第12回	カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価①（映画からカリキュラムマネジメントを探る）
第13回	カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価②（考察）
第14回	カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価③（まとめ）
第15回	これからの教育課程を創る

事前学修	2 時間	事前学習では事前に提示された資料を閲覧や視聴し、予習しておく。または事前に提示された課題について調べておく。 事前学習に必要な時間は1～2時間程度である。
事後学修	2 時間	事後学習では授業中に提示された課題や小レポートを作成し、期限までに提出する。 事後学習に必要な時間は1～2時間程度である。
フィードバックの方法	毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める。その内容について次の授業で取り上げていく。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		40%	内容は学生の状況に応じて適宜判断する。
上記以外の試験・平常点評価		60%	追加補足事項参照
補足事項	平常点評価の内訳 授業における主体的参加（学びに向かう態度） 20％ 授業における課題への取組（思考・判断・表現） 40％		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特に無し	-	-	-	-
参考資料	【参考文献】 ・よくわかる教育課程[第2版] ・新しい時代の教育課程[第4版] ・中学校学習指導要領 著書：文部科学省 出版社：東山書房 ISBN：4827815798 備考：必要に応じて入手 ・高等学校学習指導要領 著書：文部科学省 出版社：東山書房 ISBN：4827815674 備考：必要に応じて入手			

科目名	教育課程論			担当教員	龍崎 忠	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED3EFE109
期待される学修成果	基礎教養 学校と社会					
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	学校での具体的な授業づくりについての指導・助言の経験を生かし、生きる力を育てるためのカリキュラムの編成とその実際・可能性について受講者とともに検討する。					
到達目標及びテーマ	<到達目標> ・教育課程の意義、編成方法、その際の留意点がわかり、自分の言葉で説明できる。 ・様々な教育活動を位置づけ価値づけるための教育課程編成について要点を述べることができる。 ・教育課程を見直すための評価の在り方について説明することができる。 <テーマ> ・教育課程の編成の原理、方法とカリキュラム・マネジメント、教育評価の実際について学ぶ					
授業の概要	教育課程（カリキュラム）の意義と編成方法について学ぶことを目的とする。子どもたちの人格の発達を保障するという学校教育の課題が、学校教育の場面でどのようなかたちで計画され実践されているのかを具体的に検討していく。この講義では、教育課程について理論的・実践的・歴史的な観点において幅広くアプローチすることによって、現在・過去・未来の教育課程と学校での教育実践の関係について考えてみたい。 【デジタル技術利用 該当番号：3， 4， 5】					

授業計画	
第1回	カリキュラム・マネジメントのために(1)：教育課程、教科教育、教科外教育をめぐる基本的な定義を検討する
第2回	カリキュラム・マネジメントのために(2)：カリキュラムが編成される意味を考察する
第3回	カリキュラム・マネジメントのために(3)：指導計画と教育課程の関係について検討する
第4回	カリキュラム・マネジメントのために(4)：カリキュラム・マネジメントの重要性と必要性について理解する
第5回	教育課程の編成と学習指導要領(1)：学校教育の目的と目標について理解する
第6回	教育課程の編成と学習指導要領(2)：学習指導要領をめぐる諸法制について理解する
第7回	教育課程の編成と学習指導要領(3)：学習指導要領の基本的な構成について理解する
第8回	教育課程の編成と学習指導要領(4)：学習指導要領の改訂の歴史と社会的背景について検討する
第9回	「学力」とは何か(1)：学校教育がめざす学力形成とは何かについて検討する
第10回	「学力」とは何か(2)：求められる「生きる力」＝資質・能力の実際について理解する
第11回	「学力」とは何か(3)：学力低下論争・ゆとり教育について検討する
第12回	「学力」とは何か(4)：「世界標準の学力」について考察する
第13回	教育評価の意義と方法(1)：教育目標の設定とその評価の意義について検討する
第14回	教育評価の意義と方法(2)：観点別評価の実際と資質・能力の育成の実際について検討する
第15回	教育評価の意義と方法(3)：価値づくりとしての教育評価について検討する

事前学修	2時間	教科書の当該部分を読んでおき、うまく理解できないものをピックアップすること
事後学修	2時間	事前に理解できなかったものを再確認して、当該内容の理解を深めること
フィードバックの方法	リアクションペーパーについてはコメントを付して次回に返却する。内容に応じて全体でシェアする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	70%	毎回テーマに係るワークを交える

レポート	30%	期末レポートを実施する
定期試験	0%	定期試験については実施しない
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領(H29告示) 解説 総則編	文部科学省	東洋館出版社	4491034613	なし
参考資料	文部科学省『小学校学習指導要領(H29告示)』『中学校学習指導要領(H29告示)(と解説の総則編)』『幼稚園教育要領(H29告示)(とその解説)』			